



※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

定住外国人子ども奨学金募金に

ご協力をお願いします!

目標額:総額 200万円

期 限:2021年3月31日

今年は、売り上げを奨学金原資とするためのイベント出展は、イベント自体が、中止・延期となりました。11月に予定していたチャリティーコンサートも、当初開催の方向で進めましたが、2度目の感染拡大を目の当たりにし、開催を断念いたしました。

一方で、職を失った人や収入が激減した人が増え続けているニュースが流れています。そして、立場の弱い人にそういったしわ寄せが行きやすいことも指摘されています。

来年度もさらに厳しい社会状況が予想されますが、このような状況ではいっそう奨学金を支給し続ける必要があります。

現状では、皆様にご寄付をお願いするしか、すべがない状況です。皆様のご協力をお願いいたします。

奨学生からのメッセージ

D さん (13 期生)

「学校に通えなくて実感したこと」

私が学校に通えなくて感じたことは、生活リズムがくずれ、規則正しい生活が送りにくくなった事です。学校に通っている時は起床時間や就寝時間はだいたい決まっていたのですが、自粛期間中は学校がないため夜遅くまで起きていることが増えました。そのため、いつ学校が始まるか不安で規則正しい生活に戻るのに時間がかかり、体もとても重く感じました。現在も続いている新型コロナウイルスですが、たくさんの場所でマスクが売り切れ、学校が始まっても感染が予防できなく不安になりました。コロナウイルスによりたくさんの人が亡くなり、自分自身も人ごとではないと怖く感じました。日本はまだ外国にくらべて感染者は少ないけど世界中にはたくさんの人々が亡くなったりコロナウイルスで苦しんだりしています。そう思うととても悲しくなりコロナなどなくなればいいなと思いました。これが私が感じたデメリットです。

しかし、学校に通えなくて実感した良い部分もあります。普段私たちは自分のことについてあまり考えたことがないと思います。ですが自粛期間中たくさんのことを経験していくうちに色々なことを考えさせられる時間ができました。例えば勉強のこと、将来何をしたいか、など進路について具体的に考えました。目標が高ければ高いほど自分もがんばれる気がしたので、まずは行きたい大学を決めて、それに向けて一日何時間勉強したかノートに記録していました。そうすることによりもっと勉強したいと思うと同時に達成感も味わえてとても楽しかったです。

自粛期間中は休校で友達にも会えず、ニュースでは毎日感染者数が報じられる日々が続いていて辛いことがほとんどですが、その中で自分が今できること、やりたいことを見つけて挑戦したり、今まで避けてたことに目を向けることに気が付いた自分を見つめ直すことができた時間を作ることができました。

M さん (13 期生)

「最近のニュースで驚いたこと」

僕はあるニュースを見てとても驚きました。それは、「二十四歳の母親が三歳の娘を八日間もの間、放置したまま旅行に行き、死なせる」という悲惨なものでした。

僕はこのニュースを見た時、「なんてひどい話なんだ」と思いましたが、色々調べてみると、実は、この母親自身も凄絶な虐待の被害者だったということを知り、とてもゾツとして切なくなりました。

まずこの事件の経緯から説明すると、逮捕された母親は亡くなった稀華ちゃんを産んでからまもなく、夫のDVにより離婚していたので彼女はシングルマザーで、彼女以外に、面倒を見てくれる人はいませんでした。彼女は子どものことを心の底から可愛がっていたそうです。でも彼女は稀華ちゃんを家に閉じ込めて放置したまま、8日間もの間、別の男性と一緒に旅行に行き、帰ってきた頃にはシーツの上で寝そべった状態で見つかり、死亡が確認されたそうです。三歳という年は物心がつき始めたくらい歳のなのに、それで8日間もの間、部屋に閉じ込められていたので、「相当苦しい思いをしたんだな」と思い、とても心が痛くなりました。

そこで「あんなに娘のことを可愛がっていたのに、なぜそんなことをしたのだろう」と思い、この事件の犯人である母親についてももう少し深く掘り下げてみました。

すると彼女も十七年前に、母親に「しつけ」と称し、体を包丁で切りつけられたり、十分に食事をとらせてもらえないというような虐待を受けていました。だから彼女は親の愛情というものを知らずに育ち、そして母親になってしまったので、親の愛情知らない複雑な家庭で育ったことが事件に影響したのかなと考えました。

僕はこのことから、虐待から子どもを守るために人と人との繋がり、周囲の目が大事だなと考えます。

僕は小学生の頃、両親が共働きだったため鍵っ子で、その時に鍵を無くして家に入れなくなると、近所のおばさんたちが心配して自分の家に入れてくれて、おにぎりを食べさせてくれたり、友達と遊んでいるとたまに叱られたり、時にはお菓子をもらったりして、今思うと近所の方達に見守られて育ちました。そのことから地域のつながりの大切さを強く感じました。

僕は人と繋がるためにまず大切なことは自分からの挨拶だと考えます。なぜなら挨拶をすることで、少しでもお互いのことを認識できて距離が近くなると思うからです。

虐待を少しでも減らしていくために、皆が心を開いて挨拶をし、地域の人との交流を深めていくことが大切だと考えました。

S さん (12 期生)

「専門の授業が始まって」

高校一年学年末テストの最終日に、突然警報が出て、休校になってしまいました。今度こそいい点が取れるように一生懸命頑張っていたのに残念でした。社会と生産システムのテストを受けないまま、二年生に進級することになりました。

4 月になり二年生からは、電気コースを選びました。クラス発表の時もワクワクしました。まわりの男子はすごくうさくて、慣れませんが、電気の授業が始まり、一年生の時とは全く違う気分です。

電気の授業は、計算することが多いです。私は数学が苦手なので、すごく大変です。でも今、一生懸命数学の勉強をしています。ちょっとしんどいけどやっぱり一つずつ頑張っていきたいと思っています。

電気コースには週一回三時間の実習があります。実習の流れを説明したいと思います。最初の一時間は、先生の話聞いてレポートを書きます。これは普通の授業みたいです。続いて電気の図を見ながら、自分たちで電線を使って配線模型を作ります。配線模型は結構難しく、電線を一本ずつ、長さを測って切っていきます。切った電線を一本ずつめくってバラしていき、形を作ります。授業が終わるまでに完成させなければなりません。何回もの授業で、配線模型を作るので、たくさんの電線をめくる必要があります。手がものすごく痛くなります。

でも私は卒業する時には、電気の資格を取り、将来は電気の仕事をしたいと思っています。今、朝はバイトで夜は学校です。しんどいけれど頑張っていきたいと思っています。4 年間あきらめずに頑張っていて、高校を卒業したいです。

N さん (12 期生)**「学校に通えなくて考えたこと、感じたこと」**

新型コロナウイルスの感染拡大により、私の住む兵庫県は緊急事態宣言によりほとんどの学校が休校になり、通えない状況になりました。いつもなら朝起きて、服を着替えて、朝食を食べ、自転車に乗り学校に行く、といった当たり前の日々日常が当たり前では無くなったという事実を痛感し、衝撃的で、驚きました。学校に行けないため友達や先生に会えず、授業にも出られず勉強も遅れてしまうといった状態になり、学生としてはとても辛かったし、学校が再開してもちゃんとした学校生活を送れるだろうか、という不安な気持ちでいっぱいでした。今は無事学校が再開し、いつも通りの生活に戻りましたが、やはりコロナの影響を強く感じます。休校となり、自宅で過ごす事が多くなった緊急事態宣言。学校からもコロナ対策としてマスクの着用、消毒や手洗いをする、密を避けるといった事が言われ、学年ごと、バラバラで登校する分散登校が行われました。これが行われる前は学校から出される宿題や手紙が家に郵送され、連絡は学校から指定されたアプリからのメールやホームページから情報を得ていました。今もそうしています。分散登校の始まる前、自宅で過ごしている時は、コロナのせいで学校に行けなくなった事は、正直言うと寂しかったです。最初、発表された時は、休みが増えて嬉しいとは思ったものの、やはり過ごして行くと友達に会いたい、久しぶりに授業を受けたいと思ったりしました。そして何より、コロナのせいで学校行事や部活動でのコンクールができなくなる事がとても悲しかったです。本来ならば入学式や始業式も行われていたはずだし、文化祭もあったのに、コロナのせいで無くなってしまい、とても残念な気持ちになりました。コロナのせいで学校行事が無くなり、授業の数も少なくなり、長期休暇の日数も少なくなり悲しい気持ちでいっぱいになりました。ですが、その中でも対策を行いつつ、学校生活を送れるようになったのはとても嬉しく思います。感染しないか不安ですが、気をつけて生活したいと思いました。

R さん (12 期生)**「新二年生になった自分を振り返って」**

三か月間の休校期、三か月間ぶりの友達、たくさんのことをみんなに言いたいです。まず、自分の心配のことを書きます。

この休校期の間に、自分の勉強効率は下降しました。なぜかというと、家で勉強する環境と学校でみんなと一緒に勉強するのでは、感じが全然違います。だから私は学校の雰囲気がとても大切なものだと思います。例えば英語。単語を覚える効率は前より大変悪くなりました。数学と国語も同じです。内容を頭に入れたい、でも雰囲気がないので私はぜんぜん覚えられない。

学校の先生たちは私たち外国人生徒の状況を理解して、一週間に一回学校に行って勉強するチャンスをつくってくれました。支援サポートの先生に困惑していることを相談して、わからない課題をもう一回確認しました。とても助けられました。本当に先生たちに感謝しています。

二年生から、自分の勉強する科目がどんどん難しくなりました。世界史 A と地理 A は、両方とも覚える量が多いので、二年生からもっとがんばらないといけません。もし、よい大学に行きたいなら、この二つの教科は本当に大変重要です。

二年生になったら、もうひとつ良いことがありました。それは高校に後輩が入りました（めっちゃ楽

しいです！) 今年の外国人はまた三人です。中国人二人とブラジル人一人。それで自分の能力の最大限を使って彼らを補助すると思います。クラスにとけ込んで、上手な日本語を使う友達と交流する。また、私が卒業する時には、彼らはたくさん成長して、よい先輩になって欲しいと思います。

今回のコロナはとても大変です。また東京で、感染者数が増え続けています。そして、私たち自身もよく注意しなければなりません。テストが終わりましたが、私は自分の成績に自信がありません。科目数が多いことにもまだ慣れません。だから今、正確で効率が高い勉強方法を研究しています。もっともっと努力してがんばります！

A さん (11 期生)

「最近のニュース」

人は自由を与えられているのだ。自由で幸せにもなれるのに、自分と違うという理由で人を軽蔑する。こういう些細なことではじめや差別が起きるのだ。

学校のルールは生徒を守るためにあると言われていたのだ。私もそれに対して、同じように思う。でもそのルールで個性を潰していると思う時がある。例えば、先生に「なぜ、髪を染めてはいけないのか」と聞いてみると大半の答えが「チンピラやトラブルに巻き込まれないため」と返ってくるのだ。その言葉には、生徒の個性をなくしているし、偏見が隠れていると思う。金髪にしているからチャライ。髪の色が黒だから真面目。これも十分見た目で判断していると思うのだ。普通とは違うから貶す。肌の色がという理由ではじめや差別が生じるのだ。

一か月ぐらい前に、人種差別のことで騒ぎになりました。警官が容疑者のジョージ・フロイドさんを膝で押さえ付けて死なせてしまった事件をニュースで見たのだ。最初は どうして、これが人種差別になるのか私には、理解できなかったのだ。私は気になり、調べてみると、アメリカでは黒人ばかり逮捕されるという悲劇を知ったのだ。そこで、私はやっと理解できたのだ。ジョージ・フロイドさんは生きるために、偽造したお札を使ったということで拘束されたのだ。これも立派な犯罪だが、それに関しては理解できる。飢え死にか、生きるための悪ならほとんどの人は恐らく、生きる方を選ぶだろう。警官がしたことは心のない行いをしたと思う。死なせるまで押さえつける必要はなかったはずだ。

調べていくうちに、差別はもっと根深いもので、一日二日だけでは分かりきれないことばかりだ。また、私が思ったのは、普段気づいていないだけで、自分も差別しているし、差別されていると思うのだ。それは、みんなも一緒だ。

この自粛期間中、ウォーキングデッドを見て、主人公が「黒人なんていない。ばかで最低な白人もいない。生存者が死者しかいない」という台詞が心に響いた。架空の世界だけではなく、現実でも人種差別は無くなってほしい。この言葉を多くの人に知ってもらいたい。今、こういうニュースが挙げられて、もっと歴史を知らないといけないことだらけと気づき、これからはたくさん学びたい。私たち若い世代がもっと世界に関心を持たなければならないのだ。

U さん (11 期生)**「見た目」**

私が不思議に思う日本の学校（社会）のルールは見た目に関する校則です。

私の学校では、黒い靴下はふくらはぎまで、白い靴下はくるぶしから五センチ、服はスカートの中に入れる、お化粧禁止など沢山の外見に対しての校則で決められています。

最近のニュースでは「なぜツープロックを禁止するのか」という都議からの質問に都の教育委員会の答えは「外見等が原因で事件や事故に遭うケースなどがございます。」とっていました。あえて自分自身を悪く見せるような髪型にすることは問題となると思います。しかし、オシャレや見た目の清潔感など他人からみてあまりに派手すぎないものでなければ全く問題が無いと私は思います。事件や事故は起こす側が問題なので髪型は何かを起こす要因にはならないと思います。また、海外から転入してきた人は生まれ持ったの髪色など、小さい頃からしているピアスでさえも校則違反になってしまう場合もあります。頭髪やピアスなどの証明書を出したにも関わらず地毛を黒く染めるなど指示される生徒もいます。

これらの校則の中で生活して思ったことがあります。

髪の毛を染めることやピアスを開けること、お化粧をすることなどはある程度の外見を変えるだけであって個性があり、私はいいと思います。お化粧などは自分のコンプレックスなど隠すために使う人もいます。今の世の中は外見だけで判断されます。ですから校則ばかり意識するのではなく、その校則によって外見の差で虐められ、自殺する人たちもいます。なので、もう一度校則を見直すべきだと思います。

他にも、学生の時はお化粧することがいけないと言われ、社会に出るとお化粧をしないと非常識だと言われています。しかし、学生の頃にお化粧の経験をしなければ社会人になってもできないと思います。

こういった校則に対して疑問が多くあります。見た目で判断されこの人はどうという意見は一つの差別と思いました。

T さん (11 期生)**「学校に通えなくて感じたこと」**

新型コロナウイルスの影響により、3 月から休校期間になりました。初めの方は、学校に行かなくてラッキーといった嬉しい気持ちになっていました。今まで時間がなくて出来なかった趣味、新しいことへのチャレンジといった充実した日々を送っていました。もちろん今年は受験生なので 1 年生の範囲の復習もしました。毎週学校から送られてくる大量の課題。正直な所、嫌気が差しました。習っていない範囲のものばかりで、一人で学習していくのはとても大変でした。学校に通えていれば、その場で質問ができますが、自分一人では限界がありました。

また、外出自粛のため会話をするのは家族だけでした。生活リズムがずれてきて、誰にも会わず一言も発しない日もありました。そんな時に、友達から電話がきました。久しぶりに家族以外の人と話し、更に学校に行き、面と向かって話したいと思いました。

学習面では、オンライン授業が行われている学校もあると聞きました。私の学校では取り組まれてはいませんでした。ネット社会になりつつあるのに対応していなかったことに残念に思いました。学校にも行けず、家庭学習のみで、かつ受験のことも考え精神的に負担を感じるものがありました。相談する相手もおらず不安だけが積みあがっていただけでした。

6 月になり、分散登校という形で学校が再開されました。久しぶりに会った友達の顔を見てお互い、「こんな顔だった？」と笑って話していました。分散登校も終わり通常授業を受け、学校がこんなに楽しい場所だったことを思い出しました。

テレビをつければ、新型コロナウイルスの内容ばかりでしんどくなっていたので、学校ではなるべく話に出さないようにしていました。

友達と会うこと、授業を受けること、以前まで当たり前になっていたことが当たり前でないということ、今回身を持って感じました。受験への不安はなくなりませんが、今すべきことをし、自信を持って挑めるように努力していきたいと思います。